

16 忘れてはならない

梅雨入りはまだのようで、晴天に恵まれた中休み、今日、水曜日は子どもたちが待っていた「ロング昼休み」です。お日様をいっぱい浴びて、子どもたちは楽しそうに過ごしていました。校庭を走ったり、ボールゲームをしたり、中には木陰で涼みながらおしゃべりを楽しんだり、ぐるっと校庭を一周していると、「校長先生！」と声をかけてくる子や、「見てて」と自分の習得した鉄棒技を見せてくれる子、鬼ごっこの隠れ場所として私を利用する子など様々な動きが見られました。



コロナ禍ですから、できるだけマスクは着用をするものの、熱中症予防のため時々口元から外して顔周辺の温度を下げるなどの様子も見られました。おととしまでとは少しだけ違うロング昼休みですが、子どもたちは変わらず元気な姿を見せてくれています。

こんな何でもない、ごく一般的な風景が失われたのが、今から20年前の6月8日、大阪教育大学附属池田小学校で起きた殺傷事件です。8人の尊い子どもの命が理不尽にも無理矢理奪われ、さらには13人の子ども、2人の教員が傷を負わされた事件は本当に衝撃的であり、言葉を失うものでした。

子どもたちが安全で安心して学べるはずの学校という場所で、子どもたちが傷つけられその命が奪われるという、あってはならないことが現実起きてしまったことに、当時まだ学級担任をしていた私は、凍てつく冷たさを背筋に覚えるのと同時に、憤怒の感情を抱いたことを今でもはっきりと覚えています。

20年の歳月が流れ、時間とともにこの事件を覚えている人が少しずつ減っている中、被害に遭われたご家族や関係者の皆様の怒りや悲しみは、少しとしておさまることはないと思います。私たちができることはこの事件を風化させてはならないということと、再び同じような惨劇が起きないために、子どもたちの笑顔を守るために、いざという時のため(起きないことを願ってやみませんが)にしっかりと備えを怠らないことだと思っています。